

< ヒアリング レジюме >

テーマ < 日本でのリサイクル活動を生み出した経過とフリマの経済論 >

リサイクル運動市民の会

会 長 石毛健嗣

< 内 容 >

日本におけるフリーマーケットの誕生と広がりの経過

73年のオイルショック以降の、資源有限の認識から、生活防衛、節約運動としての誕生から市民権を得るまでの流れと、成熟社会の一つの現象としての生まれたフリマ、中古流通マーケット経済の誕生を・・・。

フリーマーケットのアウトドアイベントの功罪

犯罪の可能性に対する問題点や、アウトドアイベントの効用効果とは、また、流行現象による、不用品の布教活動効果が...

フリーマーケット及び中古流通経済の現状報告

フリーマーケットを開催する団体数や開催規模、そして中古の市場を生み出すフリーマーケット効果と市場規模は・・・そして新品経済に対する中古経済・・・。

フリーマーケット開催の経済効果資料

<フリマを開催する団体数は・ ・ >

現在、東京及び隣接県でのフリマ開催団体数は約500団体余りが存在し、こからは専門誌での開催告知がなされていてその数は確認出来ますが、この他に地域密着の小規模なグループが150団体はがあると推定され、また、イベント時に団体や企業組織が臨時的の行事としてフリマを開催するケースが50開催ほどありますので、これらを合わせますと700団体位がフリマを行っているようです。

<年間の開催数は・ ・ >

当会では約800開催余りで、その他の500団体の開催は組織の規模により増減しますが平均月2回は開催していますので、年間では12000開催、それに地域密着の団体も年に4回の開催で200回、企業や団体が50回で・ ・ 全体では1万3千回以上は東京及び隣接県の各地で開催されていることとなります。

<フリマに出る参加者の数は>

当会では大型会場が7会場あり、これだけでも年間84開催、1開催が平均500組以上ありますので、年間47、000組の出店者が参加し、この他の会場は平均120組位ですので、716開催×120組で約86,000組、年間合計で約13万3千組となります。

その他の団体の規模は一握りの団体を除き、小規模開催が多く平均で50組み規模ですから、12、250開催×50組で612,500組みに、一部の大型開催を加算して約70万組み、総計では年間約83万組の出店数が東京及び隣接県でフリマに参加していると思われ、1組が2以上3,4人の参加ですが平均は2.3人ですので、190万人余の延べ参加数となります。

<フリマの経済効果>

フリマの経済効果の中で単に売上だけの規模を推定すると、一組の売上高は季節や場所、参加者の規模、開催エリア等によって大きく異なります。

当会の平均は1万8千円が平均ですので、年間の出店者売上は約24億円余りで、他の団体の場合は平均が5000円から1万円の間と云われていますので平均値を7500円とすると、約70万組み×7500円で52億5千万、合計で約76億5千万余りの可処分所得が生まれている事と推定できます。

<中古流通経済の拡大>

東京都の人口は1224万人、世帯数で460万世帯、不要品、死蔵品の平均15万円相当と云われますので、都民全体では6900億円規模が内在していますが、フリマはその中のたかだか1.1%に過ぎませんが、リサイクル・ショップ、インターネットでのオークションやブックオフ等、中古流通に関わる企業活動が、まさにこの中古再流通市場の拡大を押し進めているのが現況です。

